

ASEAN 議長国に国際署名を提出

2016 年ラオス訪問団の報告

ラオス訪問団（田中団長ら 20 人）は 2016 年 9 月 22 日から 28 日まで、ラオスの首都ビエンチャンと地方都市ルアンパバンを訪問した。以下は田中団長の報告です。

★ラオス平和連帯委員会の訪問と会長との懇談

9 月 24 日午前、与党、人民革命党の国際局の応接室で、ラオス平和連帯委員会のカンパン・シマラフォン会長と懇談しました。参加者全員が出席、同委員会のボンガム書記が同席しました。同会長は駐タイ大使や駐仏大使、通産次官を歴任したベテラン外交官で、2006 年の ASEAN 憲章の起草委員を務めました。

懇談では、最初に田中が簡単なあいさつをしました。面会のお礼、東日本大震災にさいしてのラオスからの支援へのお礼。日本 AALA がベトナム戦争中にラオス爆撃に反対して抗議運動したこと、解放勢力からたくさんの写真や通信が送られてきて励まされたこと（この写真を見せた）、1971 年に代表団がパテトラオの基地を訪問したことなど、連帯の歴史にふれました。その後、東北アジアと南シナ海の緊張で人民連帯の強化が求められており、日本 AALA は東アジアへ平和の共同体を作ろうとよびかけ、運動していることを紹介、ASEAN 諸国の訪問の一環として議長国のラオスを訪問し、友好と連帯を深めたいとのべました。

これにたいしカンパン会長からラオスの内外状況を説明したいとして次のような話がありました。

国内状況＝安定した正常な安保環境のもとで経済が著しく発展している。最近の 5 年間の平均成長率は 7・9%。一人当たりの GDP も 1970 年に比べて 10 倍になった。経済発展は環境に配慮した持続可能な形態を重視している。ラオスの文化にあった段階的な工業化をめざしている。6 月の国会選挙で 146 人の議員がきまり、第 10 回党大会の方針を具体化する 5 年計画を作った。当面の優先課題は貧困の削減で、2020 年までに後発の途上国からの脱出を目標にしている。

国際関係＝ASEAN 首脳会議があり、政治から経済、文化協力まで幅広い包括的な協議がおこなわれた。ASEAN だけでなく多数の域外国が参加し、日本の安倍

首相も重要な貢献をした。ラオス訪問で友好が深まった。

日ラオス関係＝両国の関係は良好に発展している。日本からは経済、保健、教育の面で多大な援助と協力をもらっている。低金利の借款を借りられるようになり、これからもこうした資金援助は欠かせない。この場を借りて日本政府と国民に感謝したい。日本との関係は将来的にも重要だが、一つの面だけでなく多方面の関係が大事だと思っている。みなさんのような連帯の団体との友好訪問も両国関係の発展に大きく貢献するし、今後もすると思う。だから今回の訪問を嬉しく思うし、ラオスの平和団体として歓迎したい。こうした友好関係が長期的にはアジアの平和につながると思うし、このような訪問もあるからこそ、両国間の包括的な関係の象徴にもなる。これからも両者（日本 AALA とラオス平和連帯委員会）がいっそう親密になることを期待している。

田中から周囲の大国と良好な善隣関係を作る努力について質問したにたいし、次のような話があった。

カンパン会長 2つの側面がある。国境を接している国とそうでない国との関係だ。10年前、隣のミャンマーが困難な状況になったとき（軍事政権が人民弾圧をおこなって西側諸国から制裁を受けたことを指す）、同国は国内も国際関係もいろいろ問題がおこった。その解決にラオスは役割を果たした。欧州諸国のなかにはミャンマーの軍事政権が参加するなら関係したくない（ASEAN との会議にも出席したくない）と伝えてきた。その時私たちは、外交や他のいろいろな手段を使って、関係を促進した。ラオスの大使館を通じて、外相でなくても大使や次官でいいとか、そういう外交をやってミャンマーと外部との関係維持に努力した。そういうこともあっていまミャンマーとラオスの関係はとても良好だ。将来への信頼につながっている。同じようなことは ASEAN だけでなく、日本や中国、韓国といった域外国との関係でもいえる。ラオスは（小さい国だが、多くの国にかこまれて）中心に位置する国なので、その立場を利用して ASEAN 諸国と域外国との関係をラオスを通じてやっている（橋渡しの役割を果たしている）。

田中から ASEAN が発展してきた一番大事な要因は何かと質問したのにたいし、**カンパン会長** 2つある。一つはすべての加盟国が（小さな国も大きな国も）平等の立場で協力してきたことだ。3つの柱の協力をこの立場でやっていること。もう一つは、2006年の憲章の制定によって、この協力の枠組み規範ができたこと、そしてその枠組みを域外諸国との関係にも適用して、一つの規則によって平和に暮らす規範ができた。その一つが紛争の平和解決であり、何かあったときにならず平和的、外交的な話し合いで解決をする。このことを域外国との関係を促進する原則にしていることだ。もちろん核兵器も禁止している。先日の

ASEAN 首脳会議でも、そういう良好関係の立場で協議がおこなわれて成功した。安倍首相の貢献に感謝している。日本 ASEAN 関係も良好になった。

団員の河内さんが発言し、人民レベルの交流発展のためとして日本ラオス協会を再建したいと希望を述べた。(その場で返事がなかった)

須増 唯さんが、非核神戸方式を説明し、「ラオスにはラオスの平和のやり方があると思うが、これをぜひ参考にしてほしい」と資料を渡したのにたいし、

カンパン会長 ASEAN 憲章には、非核、つまり核兵器を作らない、持たない、持ち込ませないという原則が入っています。それから何かあったとくにも武力は使わないこと、外交で解決することを原理にしています。それから外国の軍事基地を作らせないことを約束しています。

高島さんから ASEAN の原則への評価とともに、人々が親切で信心深いことなど訪問の印象とからめて女性の国会議員の率 (25%)、就学率 (95%) について質問し、それぞれ答えがあった。また日野川さんが、ASEAN 共同体発足後の進展について質問したのにたいし、「発足したばかりで実質的な中身のある進展はないと思う」と返事があった。

最後に田中から、米軍爆撃の被害が続いていることへのお見舞いの気持ちと、在日米軍基地が使われたこととからめ、日本で米軍基地撤去のたたかいを進めたいとの決意をのべ、最後に、会員が集めた一万以上の人々の志をもってきたので、受け取ってもらいたいと話し、野本事務局長が英語で趣旨を説明した。

野本 非核・非同盟・中立の日本をめざし、憲法9条にもとづく平和外交を追求している日本 AALA は、北東アジアと南シナ海の緊張する今こそ、アジアの人民が民族自決権の擁護と平和、独立、共存のため友好と連帯を強めようとよびかけています。この2年間、東アジアに平和の共同体の創設をよびかける署名運動をしてきました。今回の訪問にあたって平和とラオス人民との連帯の意思を示すため会員が集めた署名を謹んでお渡しいたします。

松井さんが署名を机につみあげ、カンパン会長はありがとうといって野本さんからメッセージを受け取った。そして記念撮影をし、懇談を終了した。

★米軍不発弾の犠牲者リハビリセンターの訪問

ラオス訪問団は9月23日、ラオス市内にあると COPE（障害者支援作業所）とリハビリセンター（CMR）を訪問した。ベトナム戦争中に米軍がおこなった爆撃（第二次大戦で日本とドイツに落とされた量より多く209万トン）の後遺症、不発弾（UXO）の犠牲になった障害者と支援する施設。ちょうど前日の新聞にも南部の州で、住宅をつくろうとして木材狩りにでた20代の強大2人と、クリケットのベースを地面に書こうとしていた少年2人が、不発弾に触れて死亡したという記事が載っていた。毎年150～200人が犠牲になっている。こうした支援施設は全国に五か所ある。一か所で年間1000人の障害補助器具を作成し、リハビリしているという。

展示室長とリハビリセンターの責任者からそれぞれ説明をうけて見学した。

（米軍のラオス爆撃にかんする展示室の資料から）

1964年6月9日から1973年4月17日までラオス全土に合計56万回の爆撃をおこなった。これは8分回に一回の爆撃が9年間続いたことを意味する。歴史上もっとも1964年6月9日、米軍はジョンソン大統領の命令でジャール平原の対空放火基地を爆撃した。これは王政軍にたいする共産軍の攻勢を止める狙いだった。同時にホーチミンルートにも爆撃した。

使用されたのはクラスター爆弾だ。最初に使われたのは第二次大戦中の英国にたしてだったが、朝鮮戦争では米軍の兵力不足を補うための多様な形態が政策された。ラオスには合計26種類のクラスター爆弾が使用されたが、特徴は不発弾が多いことだ。それが悲劇をましている。ある種類のクラスター爆弾には、630個の子爆弾が包まれ、分解して飛び散る。その弾には200個のボールベアリングがつめられていて爆発すると半径30メートル以内の人間を殺傷する。どれくらいの不発弾があるか正確にはわからない。だが今は平均10%といわれ、当時の技術水準から30%、約8000万個の子爆弾が不発弾としてのこっていると推定されている。1996年までは、ソ連やキューバとラオス軍が処理にあたってきたが、どれだけ除去できたか正確にはわかっていない。1996年以来、50万個が処理されている。

2012年にコノセンターをクリントン国務緒間が訪問した。2014年、援助を増額し年間1200万ドルにした。

除去は100平方メートル四方をやるのに10日かかる。ラオスUXO約1000人と若干の外国チームが除去にあたっている。

不発弾は屑鉄として売れるので、それが一部で商売になっている。1キロ米5セントで取引され、子供にもペイバクされるので、事故が後御立たない。UXOラオが全国の学校回って人形劇で子供たちに危険を訴えているが、州によって法律が違うので、一律的な規制になっていない。

地方では、住宅や家具を周囲の木材や鉄の材料で作ることが多いので、住宅建設

のさいに事故がうまれている。

COPE (Cooperative Orthotic and Prosthetic Enterprise) は、1977年に保健省と外国のNGOが協力できた。義足はじめ障害者の補助器具の政策と訓練をやっている。(文責 田中靖宏)

(以上)